

お得なネット寄付

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校

久野 さや華

3割上乘せでお買い物

桜川市の商店支援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済的に苦しむ商店を支援しようと、クラウドファンディング(以下CF)を利用した「桜川市のお店を応援しよう!」未来のお買い物プロジェクト」が盛り上がりつつある。店舗指定型と全体支援型



プロジェクトは30日まで。みんなで桜川市を応援しよう!

のうち、特定のお店を支援できる前者に人気が集まった。例えば、五千円を寄付すると、その3割増しの六千五百円分の買い物や飲食ができるというシステムだ。

プロジェクトリーダーを務める商工会青年部副部長の廣瀬一重さんと、桜川市商工会の飯村大嗣さんに話を聞いた。

目標額上回る

支援の3割増しについて飯村さんは、桜川市や筑西市の生活圏として隣接するつくば市の存在抜きには考えられない事情もあったと話す。ライバルが2割上乘せの買い物ができるのなら「桜川市は3割増しでいきたい」と訴え、行政のバックアップを得ることができた。廣瀬さんによれば、他の自治体のように飲食店だけでなく、他業種にも支援対象を広げたことでさらに盛り上がった、と振り返る。

当初の目標額は三百万円。6月27日現在、すでに三千万円を突破しており、市外からの支援者も多いという。

高齢者にも配慮 一緒に手続き

CFやネットの操作に不慣れた高齢者の声には丁寧に対応した飯村さん。商工会で日時を設定し、スタッフと共にネット上で手順を説明しながら手続きを済ませ



取材に応じてくれた飯村さん(左)と廣瀬さん

せていったという。CFで手続きした後には郵送される「未来のお買い物券」は8月から使用できる。今回のプロジェクトが、お店のモチベーションアップにつながれば、と廣瀬さんは期待を込める。現在は、最終目標の三千万円に到達したため、3割上乘せは終了したが、明日30日まで支援は可能だ。詳細は商工会ホームページにて。

クラウドファンディング

ある目的を達成するため、インターネットを介して、不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達することで、「群衆(クラウド)」と「資金調達(ファンディング)」を組み合わせる造語。自宅や職場などネット上から支援ができるという利点がある。見返りが無い寄付型と、商品や権利の見返りがある購入型が中心。プロジェクトごとに期限と目標額を定めている。

編集後記

初めてのインタビューでも緊張しましたが、今回の取材を通して、プロジェクトメンバーの皆さんの努力で桜川市を元気にしようという気持ちが伝わってきました。私たちにも出来ることがあれば少しでも力になりたいと思います。とても良い経験になりました。(久野)

寄稿「コロナ時代」を生きる OBからのメッセージ②

緊急事態宣言解除後もキャンパスへの立ち入りが制限され、オンライン授業を余儀なくされている大学生。かつて本校ソーシャルメディア部(旧新聞部)で活躍し、現在、二松學舎大学文学部2年の高野裕崇さんにコロナ禍の今、その思いを寄稿してもらった。

5月25日、政府によつて発令されていた「緊急事態宣言」が解除された。自衛隊に関する規制が幾分か緩和され、コロナ流行以前の生活が少しだけ戻ってきたように思える。

そんな中、テレビのニュースや新聞で、聞きなじみのない言葉に触れる機会が増えてきた。それは、「自衛警察」や「マスク警察」といったものだ。自衛生活を怠っている人、外出時にマスクを着用していない人に厳しい視線を向ける人々のことを指したスラングである。その行為自体は問題視されるべきことではない。いち早くこの感染症を完全収束させるた

めには、外出自粛やマスクの着用は絶対に必要なことだし、ウィルスの特性上、一部の人の気の緩みが大きな被害をもたらしかねないからだ。そういった意味では、「警察」すなわち、正義の味方の名を冠するにふさわしいかもしれない。しかし、問題なのは、その行動が行き過ぎてしまうことがある、という点だ。外出自粛に関しては、不要不急と、必要火急、な用事の境目は人によって異なるし、マスクに関しては、呼吸器の持病や、皮膚の弱さなど、やむを得ない理由でつけられない人もいる。そんな人々にまで厳しくつらく当たって

しまう、そして時にそれが、対象の心や身体に危害を加えてしまう、それは本当に正義といえるのだろうか。そもそも、正義とは、正しいとは、どのようなものなのだろうか。

極端な例を挙げよう。1945年8月、広島と長崎に原子爆弾が投下された。民間人を含めた多くの人の命を奪った、我々にとつて、正義とは程遠い出来事である。しかし、欧米諸国には、あの原爆投下は、戦争を早く終わらせるためには正しい判断だった、と考える人もいる。確かに、原爆は戦争の終息を早めたし、戦争の終結が遅ければ、さらに多くの人が命を落とすとしていたかもしれない。一理あるし、理解もできる考え方だが、私は決して納得することはできない。新聞部員として全国大会に出場し、取材で原爆ドームと資料館を訪れたことがある。そこで感じ

た凄惨さは、今でも脳裏に焼き付いている。私は生涯、あの出来事が正しかったと思うことはないだろう。しかし、戦争終結を早めたのもまぎれもない事実なのだ。つまり、正義や正しさなんてものは人の捉え方次第なのである。しかし、今回のコロナ騒動は、ある程度正義の方向性が国民の中で一致していた。家にいること、外出時はマスクをつけることが正しい、といった風に、そう考える人が圧倒的に多数派になり、

従わない人を攻撃してしまつたのだ。マジョリテイがマイノリティを攻撃する、今回の件に限らず、現代社会で往々にして起こりうる構図である。

高野さんの他にも、本校ソーシャルメディア部(旧新聞部)OBの学生に「現在不安に思っていること」を報告してもらった。

感染はもちろん脅威ですが、自分が恐れているのは何より経済へのダメージです。本来なら就職活動を始めははずの3年なので、無事卒業できたとしても果たして就職先はあるのか、といったまだ見ぬ未来への恐れは大きいです。(日本大・大・2年)

3年) 一つになつたら大が学が始まるのか、もしかしたら、1年間普通の授業が始まらないかもしれないと考えると不安。(日本大・2年)

大学で授業を受けることが出来ない為、学生同士での意見交換ができなかつたり、オンライン授業を取り入れたことで教授の話を一方向的に聞くことになる為、学力の差が生まれにくい不安である。(茨城大・2年)



原爆ドーム前にて(左端が高野さん)

シリーズ・高校生に伝えたい名言・格言 第1回

「至言は言を去る」 (最高の言葉は無言の中にある)

13世紀のイランの詩人サーディーは「愚かなる者には沈黙に勝る言葉はない」と言います。最も大事なことは言葉では言い表せないこともあります。私たちにとりわけ言葉や行動には謙虚であるべきだと教えてください。

古くからのことわざには、生活の知恵や、私たちが生きていく指針となるべき内容がたくさん詰まっています。

水戸市在住の井川憲一さんがこれまで研究した成果を、本校生徒のために提供してくれました。良い表現があればぜひ自分のものにしてください。